

# EdTech 導入補助金2022

令和3年度補正 学びと社会の連携促進事業  
(先端的教育用ソフトウェア導入実証事業) 費補助金

## 効果報告レポート

【事業者名】

Institution for a Global Society株式会社

【ツール名】

GROW Academy

【ツールの機能分類】

発展的な学び

2023年2月





## 豊かな探究を実現し、生徒の“生きるための力”を育む

コンピテンシー・ベースの教育を実現する動画学習コンテンツ。STEAM教育を実現するためのシミュレータ型コンテンツも搭載。Society5.0時代に生きる人材を育成する学校教育の実現に貢献します。

### コンピテンシーを伸ばすためのフレームワーク（思考法）に特化

表現力や創造性、批判的思考力などのコンピテンシーを「社会のニーズに即した形で」高めるために有用なフレームワークを多数習得できます。

### カリキュラムや生徒の習熟度などに応じて柔軟に利用可能

1コマの授業にも数回にわたる指導にも対応。対面・オンライン問わず授業用素材としてはもちろん、自学習用素材としての利用も可能です。

### 充実した指導用素材によってさまざまなシーンですぐに活用可能

各動画には指導マニュアルとワークシートを完備。コンピテンシー・ベースの教育を実現するための教材研究にも活用することが可能です。

## 探究活動に関わるさまざまな課題の解決＝フレームワークの習得

探究を通して身に付けさせるべき資質・能力を育むだけでなく、探究やPBL（課題解決型学習）に関わる課題に応じたフレームワークを身に付けさせることで、各活動の効果と価値を高めることが可能です。

GROW Academy  
動画ラインナップ



コンピテンシー	動画タイトル			
思考力	ゲーム理論	ベイズ統計	フェルミ推定	抽象化・具体化
表現力	五感表現	レトリック	交渉力	プロトタイプ
判断力	期待値	ディジジョンツリー	相関・因果	情報収集力

▲育成・能力別動画タイトル（一部抜粋）

探究における主な課題	解決方法	動画タイトル
社会・対象のニーズやインサイトなどを深掘りすることができない。	質問方法、ニーズ理解の本質を学ぶ	デザインシンキング
情報を収集するための方法が分からず、必要とする情報にたどり着けない。	情報リテラシーの育成	情報収集力
グループワークなどでの議論が深化せず、表面的なやり取りにとどまってしまう。	心理的安全性の確保、多様な知識の習得	バイアス、ヴィジョン、ゲーム理論
効果的なプレゼンができず、写真を貼るだけのプレゼン資料になってしまう。	表現手法、ステークホルダーのニーズ理解	五感表現、レトリック、交渉力
情報の信頼性を判断できず、探したデータをそのままエビデンスにしてしまう。	情報判断の基準を習得	フェルミ推定、ディジジョンツリー
そもそも問いを一から立てることができず、課題を設定することができない。	物事を俯瞰して見る	疑う力、相関・因果、システム思考



各動画には学習指導案とワークシートに加えて授業用スライドも用意

各種付属品により負担なく授業ですぐに活用可能。また、指導案は資質・能力を育む授業の設計など、教材研究にもお役立ていただけます。

## ■ 批判的思考力を育む「ディシジョンツリー」を使った授業の一例

**1** NASAの長官

スペースシャトルの早期打ち上げが期待されるなかNASAは何度も打ち上げを延期していた

1980年代アメリカ

**2** 例えればこれは、過去の打ち上げに失敗したデータ(▲)を、数字はわかりやすいように簡単に示すよ。

今までの打ち上げの実験の実績は **成功80%** **失敗20%**

打ち上げに失敗した回数

温度(°C)

**3** 合理的

打ち上げる **利益**

成功80% 5億ドル

成功しない20% -10億ドル

2億ドル

5億ドル×80%+(−10億ドル)×20%=2億ドル

打ち上げない **損失**

成功しない100% -1億ドル

-1億ドル

(−1億ドル)×100%=−1億ドル

スペースシャトルを打ち上げる？

このデータを元にディシジョンツリーにしてみると...

**4** さっきのグラフや周りからのプレッシャーを考えると発射するのが合理的な判断だね!

でもこのデータ、何かが足りないと思わない？

これだけ見たらそうだね

### 動画視聴後の活動例



- ① シャトルを打ち上げるための意思決定に不足しているデータはないか考えさせる。
- ② データや前提条件によって取るべき意思決定が変わることを理解させる。
- ③ 意思決定を科学的に行えるようにするため日常の題材を使って実際にディシジョンツリーを作らせる。

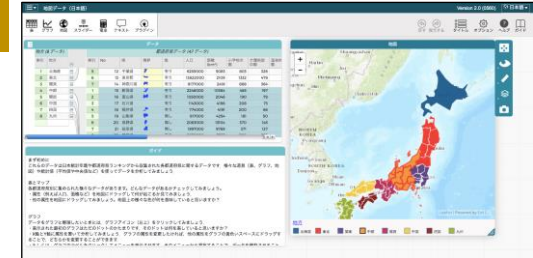
「理数探究」に準拠したSTEAM教育コンテンツも利用可能

地域に貢献する会社を起業するSTEAMシミュレーションゲーム・コンテンツも利用可能。起業家に必要な知識をワークを通して学べ、答えのない問いを解決するために必要な資質・能力を習得することができます。

## 起業家を目指すSTEAMコンテンツの基本設計

1. 会社や会社の価値について考える  
社会課題から地域に貢献するサービスを考える
2. CASE※について学ぶ  
モビリティ×○○で起業するサービスを考える
3. PESTについて学ぶ  
マクロ環境に関する考察を行う
4. 地域経済分析システムについて学ぶ  
サービスの提供エリアを選定する
5. マーケティング調査や市場などについて学ぶ  
サービス価格と売上・経費の根拠をまとめる
6. 事業を拡大するための戦略論について学ぶ  
企業の差別化戦略などについて考える

※Connected、Autonomous、Shared & Services、Electric の頭文字をとった造語



▲分析ツール (CODAP) を駆使したデータ分析にも挑戦



## ■ 年間利用料 (ご採用校は学校内に限り人数に上限なく自由にお使いいただけます)

スタンダードプラン	フレームワーク動画24タイトル+STEAMコンテンツ+STEAMシミュレータ	2,500,000円 (税別)
思考力養成パッケージ	フレームワーク動画14タイトル+STEAMコンテンツ+STEAMシミュレータ	1,650,000円 (税別)
キャリア教育パッケージ	フレームワーク動画10タイトル+STEAMコンテンツ+STEAMシミュレータ	1,200,000円 (税別)
探究ミニパッケージ	フレームワーク動画5タイトル+STEAMコンテンツ	650,000円 (税別)

先生方が抱える以下の悩み・課題を「GROW Academy」によって解消する。

### 横浜市立南瀬谷中学校の課題



探究が表面的な活動にとどまり活動がなかなか深まらない

探究のテーマや思考のきっかけではなく、生徒の思考を深め、豊かな発表活動を実現するために必要なフレームワークを多数提供。

#### 目指す課題解決

課題を一から設定し、他者と協働しながら解決に導く有用な「型」を与え、課題解決の過程で必要となる資質・能力も同時に高める。



コンピテンシーを伸ばすための指導がイメージできない

伸ばしたいコンピテンシーから扱う動画の選定も可能。動画には付属の指導案に加え授業用スライドとTips付きワークシートも完備。

#### 目指す課題解決

教材研究の時間を最小現にとどめコンピテンシー・ベースの教育と新学習指導要領の要請に対応した指導を負担なく実現させる。



引き続き学校行事等が制限される中で非認知能力が伸ばせない

新学習指導要領にも対応し、探究以外の教科指導でも活用可能。先生の介入なくオンラインでSTEAM教育を実現するコンテンツも実装。

#### 目指す課題解決

不足する協働の機会を補填・充足させたうえで、オンライン授業でもコンピテンシーが成長することを先生・生徒双方に実感させる。

## 横浜市立南瀬谷中学校：スポット活用でコンピテンシー教育を実現



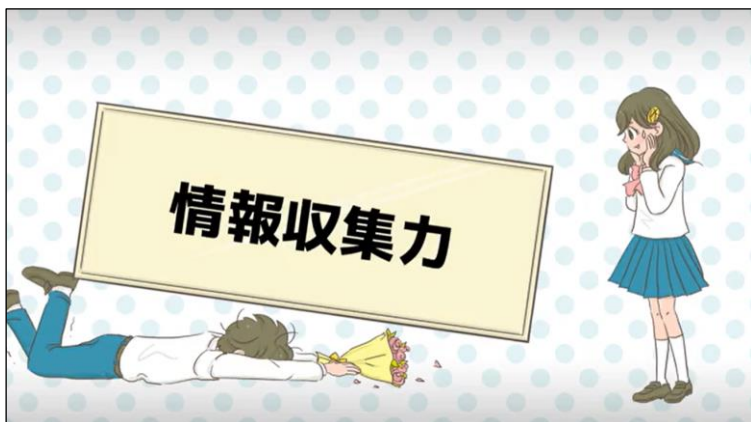
探究活動の深化

コンピテンシー育成

協働機会の創出

コンピテンシー・ベースの教育を導入・推進していくうえで、中学生でも理解しやすく取り組みやすい最適な教育コンテンツを模索していた。

- ・ 育成を目指す資質・能力（コンピテンシー）に応じたフレームワークを抽出
- ・ 総合的な学習の時間の中でフレームワーク動画をスポットで活用
- ・ 動画に付属の指導案はそのまま活用。授業準備と教材研究の時短にも貢献

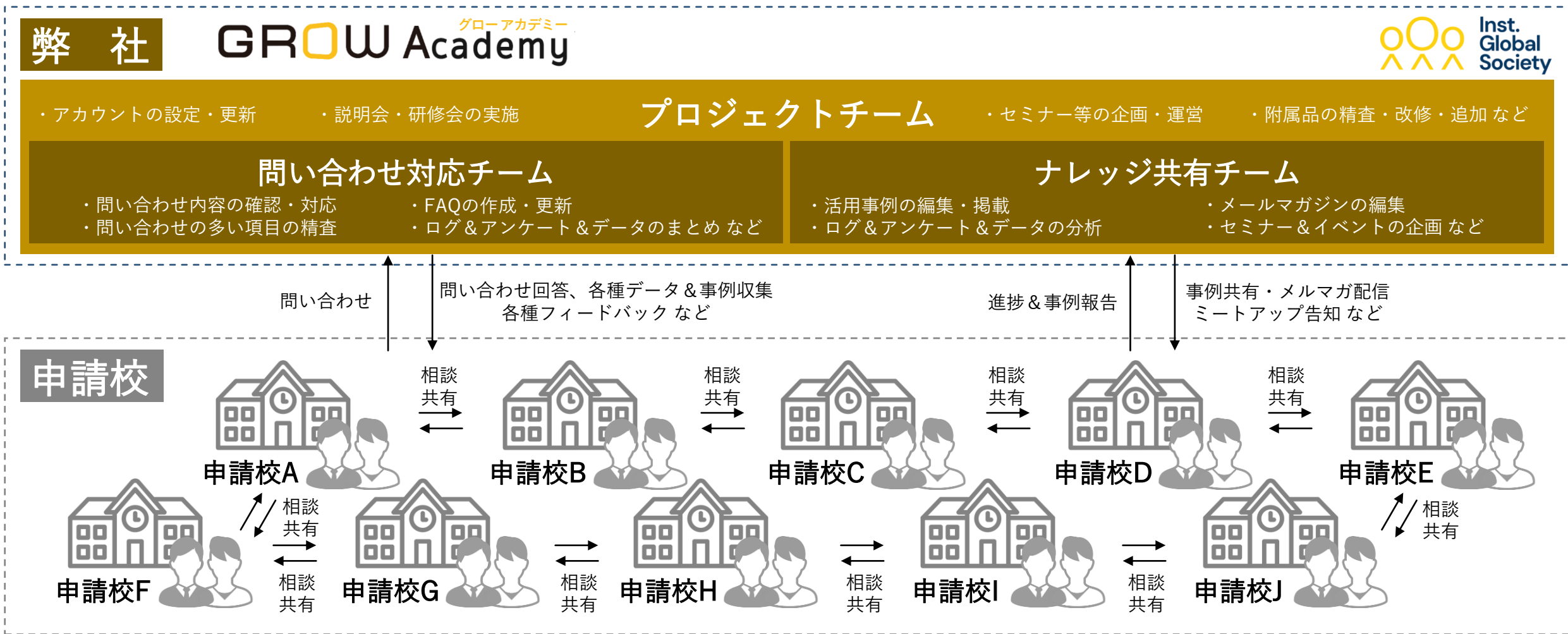


◀動画に付属の生徒用ワークシート

### 活用事例の概要

- 活用シーン  
総合的な学習の時間
- 対象生徒  
1・2・3年生
- 主な育成目的  
表現力  
思考力  
判断力
- 使用動画  
疑う力  
情報収集力  
Who am I

各申請校とのコミュニケーションを円滑に行うため、本補助事業専門のプロジェクトチームを編成。月1回メールマガジンを配信（EdTechツールの有効活用につながる情報含む）、同じような目的や課題を持つ申請校同士をマッチングすることで申請校のネットワークの構築を図った。





安定運用に向け、通常サポートに加えて申請校ごとに生徒および先生を対象とした導入説明会を実施。活用方法に関するレクチャーを行う他、特に申請校のニーズや課題をヒアリングしたうえで、活用する動画について活用順や活用シーンの擦り合わせに注力した。

### ■ 生徒向け導入説明会



生徒向けの説明会ではコンピテンシーとフレームワークの重要性を解説。自学での取り組み方を説明する他、申請校からのリクエストに応じて模擬授業も実施。

### ■ 先生向け導入説明会



先生向けの説明会では主に探究と絡めた活用を提案。「Ai GROW」の受検結果から得られたエビデンスを基に育成能力を擦り合わせた申請校も多数。

### ■ 安定運用と有効活用に向けたセミナー



コンピテンシー育成事例の共有会を全国で対面実施（感染症対策に配慮して実施）。質疑応答やその後の交流・名刺交換など、先生同士の交流を促進。

全国67校からの申請を受け、本補助事業を実施した。

地域	学校名	区分	利用学年	利用生徒数	利用先生数
北海道地方	北海道湧別高等学校	公立	1,2,3	117	20
	札幌市立手稲東中学校	公立	1,2,3	529	42
	北海道雄武高等学校	公立	1,2,3	64	14
	函館白百合学園中学校	私立	1,2,3	59	20
	函館白百合学園高等学校	私立	1,2,3	277	50
東北地方	弘前学院聖愛高等学校	私立	1	39	3
関東地方	群馬県立大泉高等学校	公立	1,2,3	467	43
	埼玉県立大宮光陵高等学校	公立	2	341	17
	埼玉県立南稜高等学校	公立	1,2	720	80
	さいたま市立三室中学校	公立	1,2,3	864	68
	秩父市立高篠小学校	公立	4,5,6	113	7
	千葉県立千葉西高等学校	公立	3	315	17
	敬愛学園高等学校	私立	1,2,3	1,172	35
	日野市立日野第一中学校	公立	1,2,3	696	36
	東京学芸大学附属国際中等教育学校 (中学部)	国立	2	110	6
	宝仙学園高等学校	私立	1	249	10
	ドルトン東京学園高等部	私立	1	134	15
	明星学園中学校	私立	2	149	7
	大成高等学校	私立	1,2	901	42
	公文国際学園高等部	私立	1,2	316	18
	宝仙学園中学高等学校 共学部理数インター	私立	1,2,3	644	10
公文国際学園中等部	私立	1,2,3	528	27	

地域	学校名	区分	利用学年	利用生徒数	利用先生数
関東地方	自由ヶ丘学園高等学校	私立	1,2,3	588	60
	ドルトン東京学園中等部	私立	1,2,3	309	15
	桜丘中学校	私立	1,2,3	461	10
	桜丘高等学校	私立	1,2,3	1122	20
	聖ドミニコ学園中学校	私立	1,2,3	116	33
	聖ドミニコ学園高等学校	私立	1,2,3	135	33
	成立学園高等学校	私立	2,3	65	4
	宝仙学園小学校	私立	4,5,6	91	10
	東京創価小学校	私立	5,6	191	19
	横浜市立南瀬谷中学校 (株式会社137とのコンソーシアム)	公立	1,2,3	469	30
	鎌倉市立第一中学校	公立	1,2,3	204	20
	横浜国立大学教育学部附属鎌倉中学校	国立	1,2,3	434	28
	湘南工科大学附属高等学校	私立	1	379	40
	藤沢翔陵高等学校	私立	1,2	202	12
関東学院六浦高等学校	私立	1,2	200	17	
武相高等学校	私立	1,2,3	783	74	
中部地方	富山県立滑川高等学校	公立	1,2,3	192	10
	金沢高等学校	私立	1,2,3	1281	80
	山梨英和中学校	私立	3	51	6
	山梨英和高等学校	私立	1,2	206	30
	清水国際高等学校	私立	1,2,3	437	45
	愛知県立岡崎北高等学校	公立	1	360	20

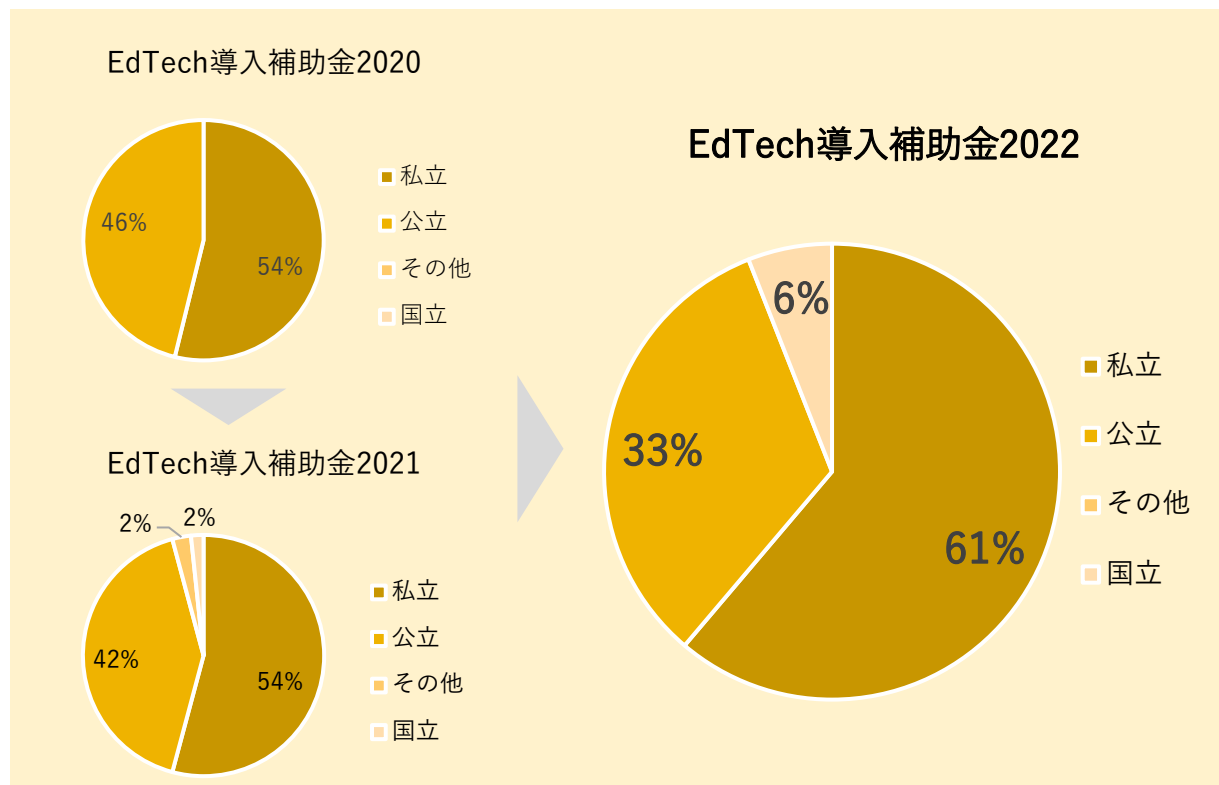


全国67校からの申請を受け、本補助事業を実施した。

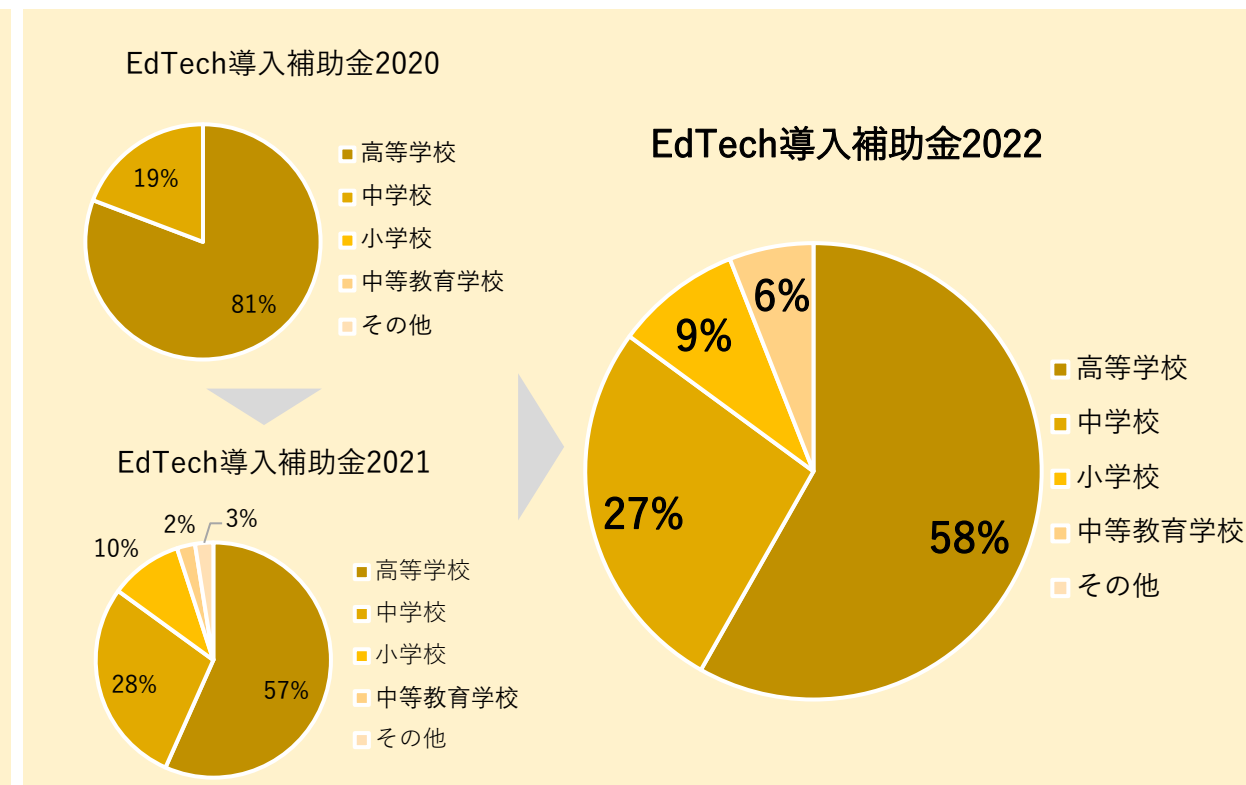
地域	学校名	区分	利用学年	利用生徒数	利用先生数
中部地方	三重県立松阪高等学校	公立	1,2	560	70
	三重県立稲生高等学校	公立	1,2,3	550	45
	鈴鹿中等教育学校（前期課程）	私立	3	126	50
	鈴鹿中等教育学校（後期課程）	私立	4,5	233	50
近畿地方	京都市立葵小学校	公立	4,5,6	243	22
	東大阪大学敬愛高等学校	私立	1,2,3	658	40
	兵庫県立小野高等学校	公立	1,2	120	6
	兵庫教育大学附属中学校	国立	1,2,3	289	28
	神戸龍谷高等学校	私立	1,2	642	33
	奈良学園小学校	私立	4,5,6	174	20
中国地方	岡山市立芳泉中学校	公立	1,2,3	894	75
	明誠学院高等学校	私立	1,2	225	7
	福山市立城北中学校	公立	1,2,3	673	50
	広島大学附属福山高等学校	国立	1,2	406	63
	近畿大学附属広島高等学校 福山校	私立	1	241	12
	広島工業大学高等学校	私立	1	468	91
九州・ 沖縄地方	福津市立津屋崎小学校	公立	4,5,6	495	25
	明治学園高等学校	私立	1,2	325	20
	明治学園中学校	私立	2,3	303	30
	熊本市立千原台高等学校	公立	1,2	388	45
	ルーテル学院中学校	私立	1,2,3	247	9
	ルーテル学院高等学校	私立	1,2,3	1041	28
	鹿児島情報高等学校	私立	1,2	951	107

「GROW Academy」の申請校（67校）の区分は以下の通り。

## ■ 申請校区分別 1（設置区分）



## ■ 申請校区分別 2（学校区分）

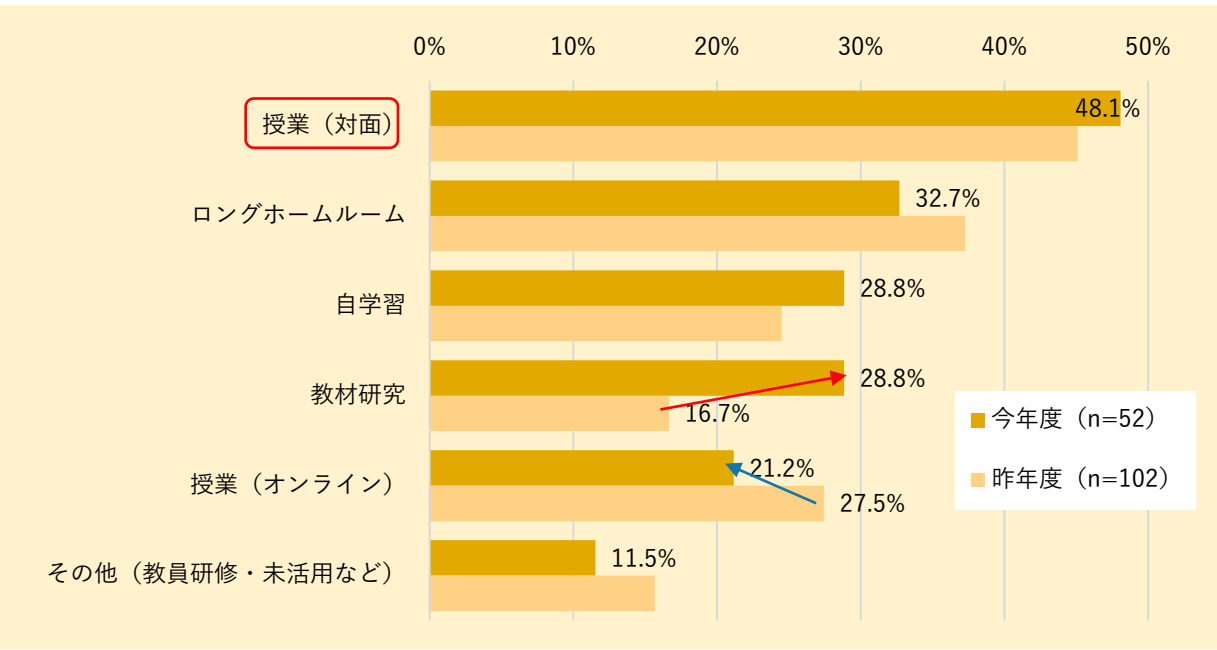


- 設置区分の比率は私立がやや増加。また数は少ないが国立の申請校数が倍増（昨年度2校→今年度4校）。
- 学校区分の比率の傾向は昨年度と同様で、小・中学校からの申請が増加した昨年の比率を保っている。

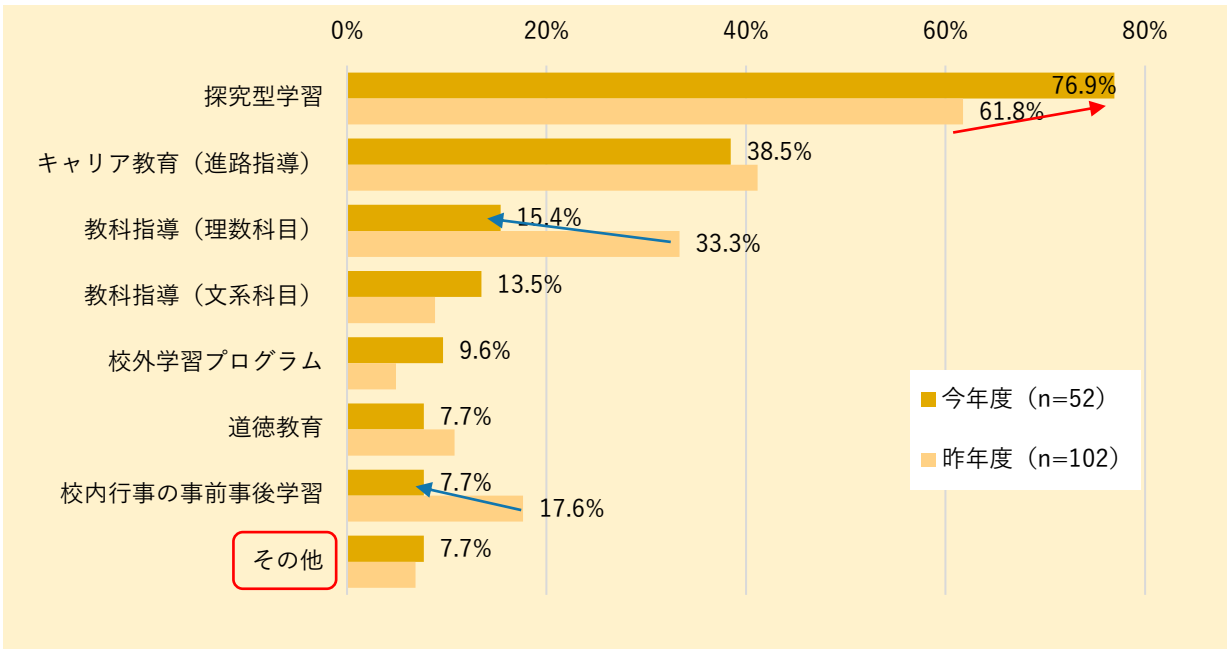
# ■ EdTechツールによる活用効果

申請校の先生方にご協力いただいた「GROW Academy」活用に関するアンケートの結果

## ■ 活用シーン（複数選択可） 横浜市立南瀬谷中学校の回答



## ■ 活用目的（複数回答可）



- 活用シーンは、昨年度と同様に対面授業とロングホームルームが上位を占めるが、教科指導を含む授業での活用割合が増加。
- 教材研究目的での利用が増（昨年度から12.2pt増）。コンピテンシー・ベースの教育に苦慮される先生が多いことが分かる。
- 昨年度と比べ、以前の体制に戻りつつある学校が多く、オンライン授業での活用は昨年から6.3pt減。
- 探究型学習（総合的な探究の時間を含む）での活用が昨年度より15.2pt増加。探究とその教材に課題感を持つことが分かる。
- 教科指導（理数科目）での活用は昨年度から17.9pt減。校内行事の事前事後学習での活用は10.0pt減となった。

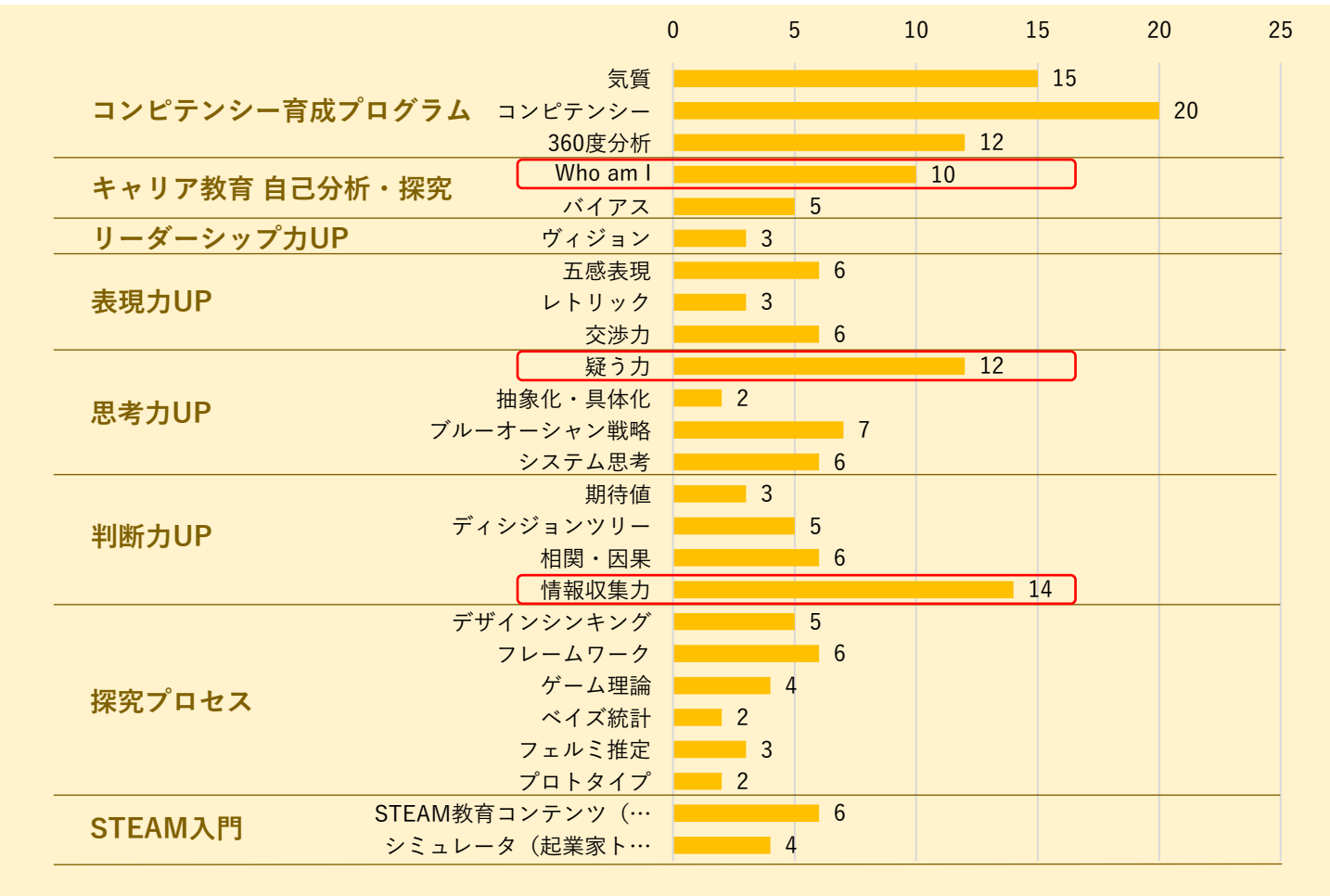
出展：「EdTech導入補助金2022」に関するアンケート（① 対象：「GROW Academy」申請校の先生 ② 有効回答数：52件（回答率 77.6%） ③ 実施時期：2022年12月20日～2022年12月31日 ④ 実施方法：Google Forms）



# EdTechツールによる活用効果

申請校の先生方にご協力いただいた「GROW Academy」活用に関するアンケートの結果

## 活用した動画（複数選択可） 横浜市立南瀬谷中学校での活用動画



- コンピテンシー育成に関わる動画の利用率が高く、「生徒が自己理解を深める土台になる」（アンケート回答より）など関心の高さが伺える。
- 「疑う力」「情報収集力」も利用率が高い。アンケートでは「インターネットを利用した正しい情報収集力を身に付けさせるため」「探究を実施するに当たって必要な要素なので」という声があった。
- 動画選定の視点として「探究活動や身に付けたい資質・能力との関連が深かったため」「探究学習や行事を充実させるために使えそう」などが挙げられた。
- 教材研究や教員研修で動画を用い「探究学習、キャリア教育、STEAM教育を進めるうえで教員が学ぶため」に活用するケースもあった。

出展：「EdTech導入補助金2022」に関するアンケート（① 対象：「GROW Academy」申請校の先生 ② 有効回答数：52件（回答率 77.6%） ③ 実施時期：2022年12月20日～2022年12月31日 ④ 実施方法：Google Forms）

<課題に対しての活用効果> - 「GROW Academy」活用に関するアンケートより 横浜市立南瀬谷中学校の回答



探究が表面的な活動にとどまり活動がなかなか深まらない

- ・ 探究指導の参考になった／知見が深まった（公立高校、私立高校 ほか）
- ・ 概念を掘り下げることが可能になり、生徒自身が考えを持つきっかけになった（私立 中学校）
- ・ 対話的学びの際の組み合わせでより狙いに則した話し合いができた（私立 中学校）
- ・ これまでディベートやディスカッションの際に、その力以前に必要な考え方や見方をどのように教えたらいいのか分からなかったが、このような教材で生徒自ら感じ、気付くことができるのが効果的だと思った（私立 中学校）
- ・ データの取り扱い方法について、動画とワークを通じて具体的にイメージすることができた（公立 高校）



コンピテンシーを伸ばすための指導がイメージできない

- ・ 児童の主体性を向上させるための方法がイメージできた（公立 小学校）
- ・ 生徒の自己理解を深める方法が理解できた（公立 中学校）
- ・ これまで気付けなかった生徒の一面に気付けるようになった（私立 中学校）
- ・ 生徒に身に付けてほしい力は何か、どうすればその力が今よりも向上するのか、という視点で考える気持ちが強くなった（公立 高校）
- ・ ワークシートで負担なくコンピテンシー教育に取り組めた（公立 中学校）
- ・ 生徒や保護者と学業以外の資質・能力について話す機会が増えた（私立 高校）



引き続き学校行事等が制限される中で非認知能力が伸ばせない

- ・ 学校行事が通常の状態に戻りつつある中、他者と協調・協力してクラス企画を成立させる文化祭において非常に効果を発揮した（公立 高校）
- ・ コンピテンシーを発揮したり伸ばしたりする機会がコロナ禍で薄れていたが、動画を通じてコンピテンシーを伸ばせたことで、1年生でしかも初めての文化祭としてはクラス企画のクオリティが非常に高かった（公立 高校）
- ・ 探究活動の知識および技能の共有やチームでの目標の共有により、活動への意欲が高まった（公立 小学校）

<活用効果として挙げられたその他のポイント> - 「GROW Academy」活用に関するアンケートより

横浜市立南瀬谷中学校の回答



動画コンテンツ学習

- ・生徒たちも理解しやすかったようで非常に助かった。生徒たちが動画の中に出てきたフレーズを使おうとするようになった (私立 高校)
- ・普段の授業とは異なる教材を使用することにより、生徒は興味を持って取り組むことができた。視覚で導入することで関心を抱いて本題に入れたことから、通常授業と比較して集中できていた (公立 高校)
- ・動画コンテンツなど従来の紙教材以外の学習コンテンツに抵抗なく自然に取り組めるようになったのも目に見える効果の一つ (公立 高校)
- ・学生生活という身近な状況を題材としている動画で、生徒も楽しんで学ぶことができていた (公立 中学校)



授業準備

- ・教材準備の時間が減った (私立 高校)
- ・全教員が共有できるツールがあることが、指導への安心感につながった。また、授業準備の時間短縮になった (公立 小学校)
- ・外部のリソースを活用して、質の高い授業を行うことの意義を感じた (私立 中学校)



キャリア・入試

- ・生徒が自分の進路に真剣に向き合うようになった (私立 高校)
- ・生徒が自身の適性を自覚し、総合型選抜入試に向かう際の参考資料になった。自己の強み・弱みについて多少なりとも知ることができたのではないだろうか (公立 高校)



指導案  
ワークシート  
の活用

授業で活用した学校のうち95%が「GROW Academy」付属の指導案・ワークシートを活用したと回答。うち「生徒に合わせてアレンジした」と回答した学校は約5割

- ・指導案・ワークシートの2点があるだけでも教員の「使ってみよう」「見てみよう」という意欲につながっている。毎日忙しすぎて、一から指導案を立ててまで新しいものを使ってみようとするのは難しいので、大変ありがたかった (公立 中学校)



## ■ 成果の分析

活用効果で注目されている「コンピテンシー育成」については、「GROW Academy」での育成が可能であることが実証されている。

※ 「コンピテンシー育成」に関わる動画の利用率が高い (p.14参照)

※ 「EdTech導入補助金2021」、「未来の教室」実証事業などにて実証

つまり、今年度の「EdTech導入補助金」の活用によって得られた効果には「コンピテンシー育成」が含まれているといえる。

一方、活用効果のアンケートからは、ツールの活用を通じて校内の「コンピテンシー育成」への理解も促進されることが分かった。

※ 「同僚がコンピテンシーの伸長の重要性に少しずつ気づき始めた」 (p.15参照)

また、「探究型学習におけるお悩み」整理結果を見ると、「探究や資質・能力の評価」で多くの先生が課題感を持つことが分かった。

※ 次項、整理分類「評価・フィードバック」項目を参照



本効果報告レポートでは、「EdTech導入補助金」の効果検証を目的に申請校の一部の学校で実施した生徒のコンピテンシーと

その成長を定量評価する弊社のアセスメント・ツール「Ai GROW」を用い、

各申請校が「GROW Academy」で活用した動画（とその後のワーク）によるコンピテンシーの成長を

定量的にまとめ、「GROW Academy」の教育効果のエビデンスを示す。

合わせて、探究型学習やコンピテンシー育成の取り組みの効果を定量的に評価することが可能であることを示す。

# ■ EdTech導入補助金2022活用による成果の分析と考察

## アンケート「探究型学習におけるお悩み」の整理分類

### 共通認識

担当の教員だけが実施している

長期的な視点で教員の足並みを揃えること。  
情報だけでなく価値の共有が難しい

指導者の足並みを揃えられるようになるかどうか課題

(理解はかなり進んだが)先生方の熱量に差がある

探究型学習に対する生徒・保護者・教員の  
理解を深めるためにどうするか

探究学習のプロセスと目的設定、意識合わせ

他の教員とのコンセンサス  
授業のデザインや評価について統一した考えを持つ難しさ

評価や取り組みについて共通認識を持つのが難しい

即効性のあるものではないことを  
指導する側が認識できておらずじっくりと取り組めない

### 学校方針

方向性がはっきりと決まっていない

日常の教育活動を行う中、  
新たなプログラムを創るのに時間がかかる

育成目的やゴールが明確になっていない

### カリキュラムの構築

課題設定・解決に向けた実践的かつ継続的な活動を検討・構築する  
ことが難しい

現在の探究をより充実させるための改善ポイントが分からない

一気通貫した探究のデザインを考えることが難しい

テーマや課題の設定が難しい

学年で統一がよいのか担任などの企画で個々に進める方がよいのか

探究活動において地域との連携をどう行っていけばよいか

### 教科・進路指導との関連

親和性の高い教科とそうではない教科があるように捉えられる

教科と組み合わせながら系統的な学びにさせていくことが難しい

大学受験との擦り合わせ（特に一般選抜との兼ね合い）が難しい

教科指導にも探究的な要素を加える必要があると思うが、その方法が分からない

### カリキュラムの実践

指示待ち思考になっている生徒をいかに主体性をもって  
探究型学習に取り組みさせていくか

子どもたちの探究の意欲を持続させるための働き掛け

生徒間の力の差が分かりづらく、  
ホームルームなどでの進行に苦勞する

答えのない問いに向き合うことに慣れていないため、  
モチベーションが長く続かない

コンテンツベースで学習が進みがち

生徒の状況に応じた指導内容の変更・工夫

実施するにあたっての指導のノウハウがないので、  
どのように進行していくか悩んでいる

個の興味・関心に応じて探究活動をさせたいが、  
現実的にはその時間や余裕がまったくない

課題発見につながる資質・能力をどう高めていけるか

### カリキュラムと資源

カリキュラム設計や授業準備における  
負担感を感じている

教科の負担が大きく、探究に割く時間の  
確保に苦勞する

可処分時間の確保（カリキュラムの問題）

定期的には実施できず、継続した探究学習が  
できない

授業準備や教材研究時間の確保

担任の先生方の負担が増えてしまうこと

他の業務との兼ね合い

学校にある設備と与えられた予算が厳しい

### 着目

### 評価・フィードバック

成果が見えづらい。負担のない効果測定はないか

情報収集後の分析力を測る指標がない

生徒の変容を記録したり共有したりフィードバックしたりするための  
枠組みが少ない

生徒の探究力に対する適正な評価方法

非認知能力が育てているか可視化することが難しい

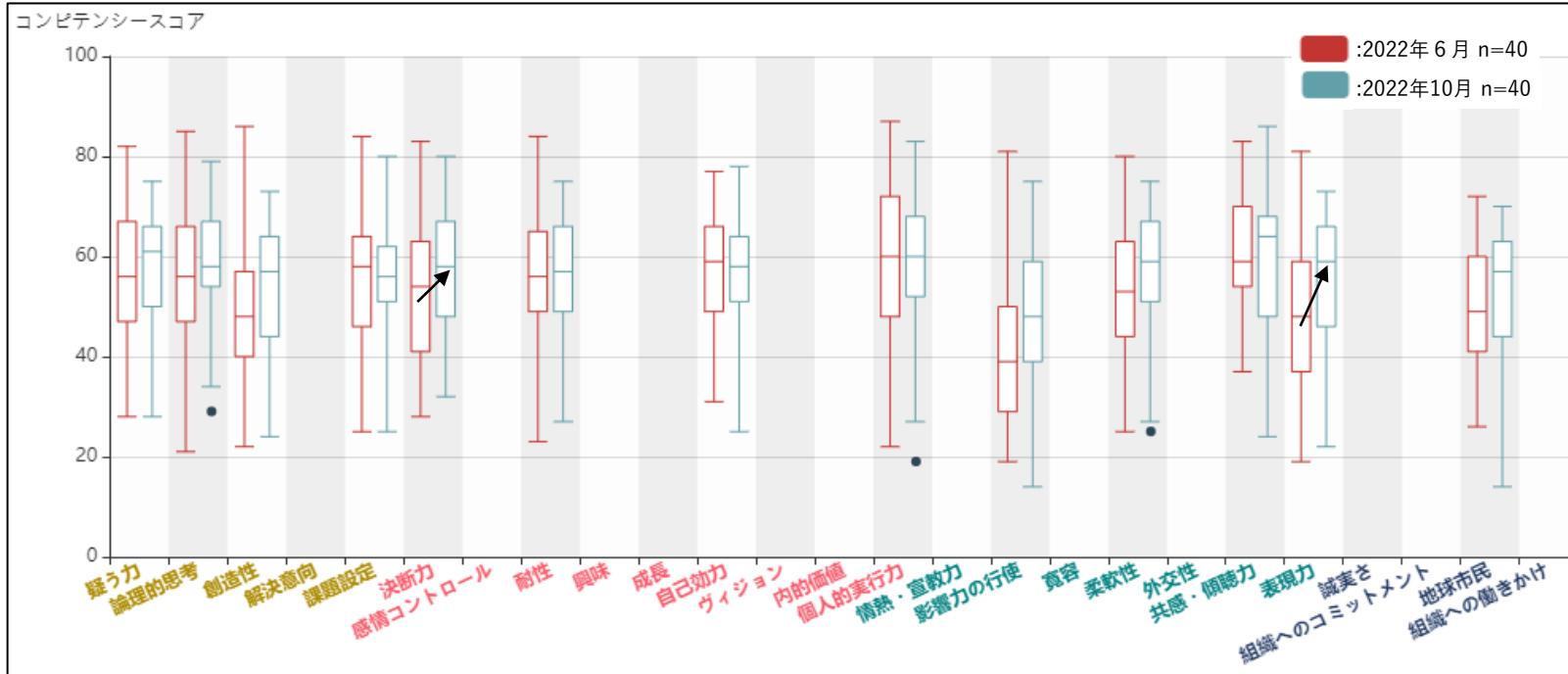
コンピテンシーに着眼し、コンピテンシーを評価することの難しさを感じている

探究の評価をどうするか。できる限り客観的な評価するにはどうすればよいか

# EdTech導入補助金2022活用による成果の分析と考察

## 申請校A：高校1年生 (n=40)

特に育成したいと考えたコンピテンシー「決断力」「表現力」で明らかなプラス成長が認められた。



### 使用コンテンツ (動画)

育成目的	「GROW Academy」動画
コンピテンシー理解の促進	気質
	360度分析
	コンピテンシー
キャリア教育&自己分析・探究	Who am I
課題解決	ゲーム理論

### 今後使用したいコンテンツ (動画)

育成目的	「GROW Academy」動画
論理的思考 (思考力)	システム思考
決断力 (判断力)	期待値
	ディジジョンツリー
	相関・因果
	情報収集力
課題設定	デザインシンキング

使用コンテンツに対応した育成コンピテンシー (○)																									
そのうち、特に注目していたコンピテンシー (◎)																									
	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○				
	疑う力	論理的思考	創造性	解決意向	課題設定	決断力	感情コントロール	耐性	興味	成長	自己効力	ビジョン	内的価値	個人的実行力	情熱・宣教力の行使	寛容	柔軟性	外交性	共感・傾聴力	表現力	誠実さ	組織へのコミットメント	地球市民	組織への働きかけ	
最大値	75	79	73		80	80		75			78			83		75		75		86			70		
中央値	61	58	57		56	58		57			58			60		48		59		64			57		
最小値	28	34	24		25	32		27			25			27		14		27		24			14		
平均	58	58	54		56	57		57			57			58		49		58		58			53		
標準偏差	10	11	12		10	12		10			11			13		14		11		13			13		
効果量	0.19	0.17	0.37		0.06	0.24		0.01			0.01			0.1		0.49		0.39		0.26			0.48		0.2

効果量	
0.01	非常に少ない
0.2	小
0.5	中
0.8	大
1.2	非常に大きい

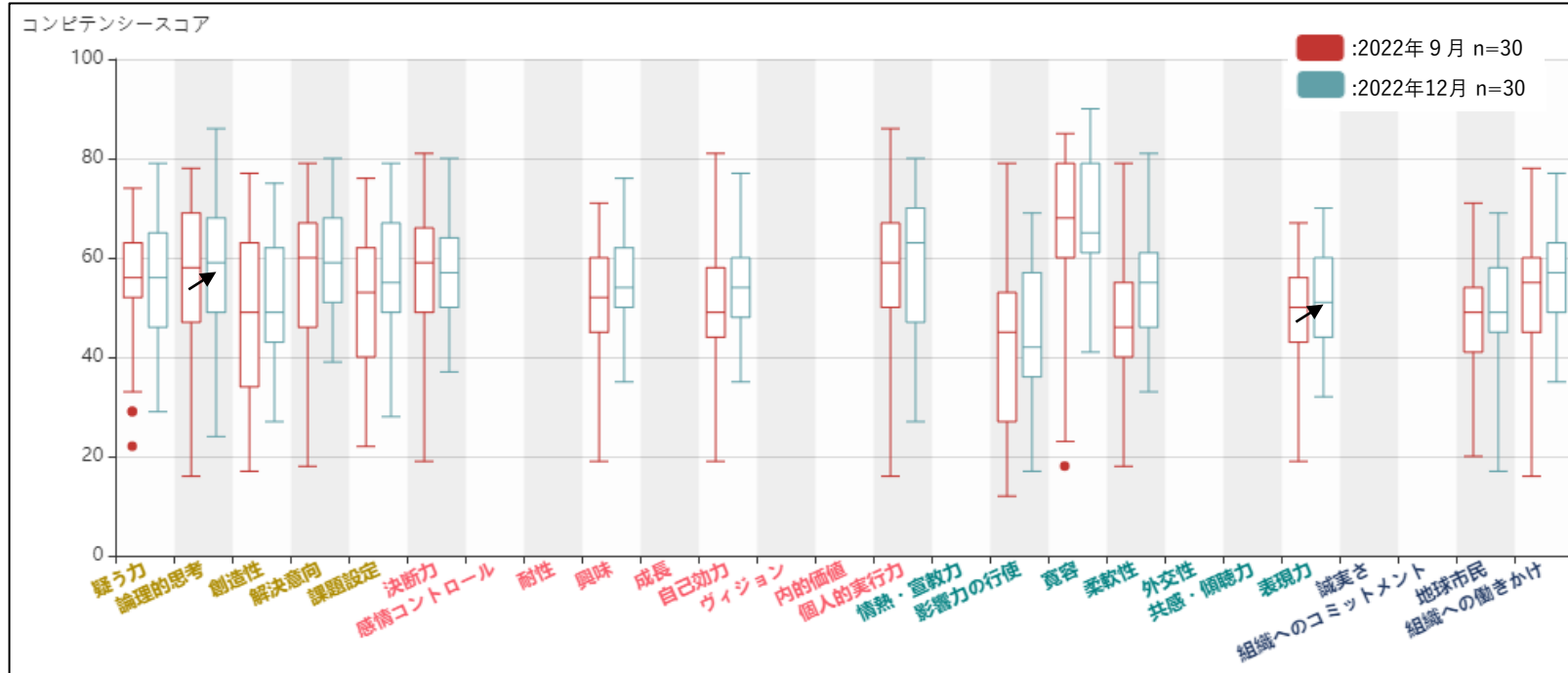
分析方法：資質・能力を定量化する自社のアセスメント・ツール「Ai GROW」を使用。「GROW Academy」の活用前後で2度計測し、その間の生徒の資質・能力の変化を定量化した。



# EdTech導入補助金2022活用による成果の分析と考察

## 申請校B：高校1年生 (n=30)

特に育成したいと考えたコンピテンシー「論理的思考」「表現力」で明らかなプラス成長が認められた。



### ■ 使用コンテンツ (動画)

育成目的	「GROW Academy」動画
表現力	五感表現
論理的思考 (思考力)	疑う力

### ■ 今後使用したいコンテンツ (動画)

育成目的	「GROW Academy」動画
キャリア教育、自己分析・探究	バイアス
表現力	レトリック
	交渉力
決断力 (判断力)	期待値

使用コンテンツに対応した育成コンピテンシー (○)																																						
そのうち、特に注目していたコンピテンシー (◎)																																						
	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																			
	疑う力	論理的思考	創造性	解決意向	課題設定	決断力	感情コントロール	耐性	興味	成長	自己効力	ビジョン	内的価値	個人的 実行力	情熱・ 宣教力	影響力 の行使	寛容	柔軟性	外交性	共感・ 傾聴力	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
最大値	79	86	75	80	79	80			76	77				80		69	90	81			70			69	77													
中央値	56	59	49	59	55	57			54	54				63		42	65	55			51			49	57													
最小値	29	24	27	39	28	37			35	35				27		17	41	33			32			17	35													
平均	56	59	50	59	55	56			55	54				60		45	69	55			51			50	56													
標準偏差	12	13	12	10	13	10			9	9				13		15	11	11			10			11	11													
効果量	0.06	0.23	0.14	0.16	0.22	0.09			0.33	0.21				0.25		0.15	0.22	0.46			0.2			0.21	0.33													

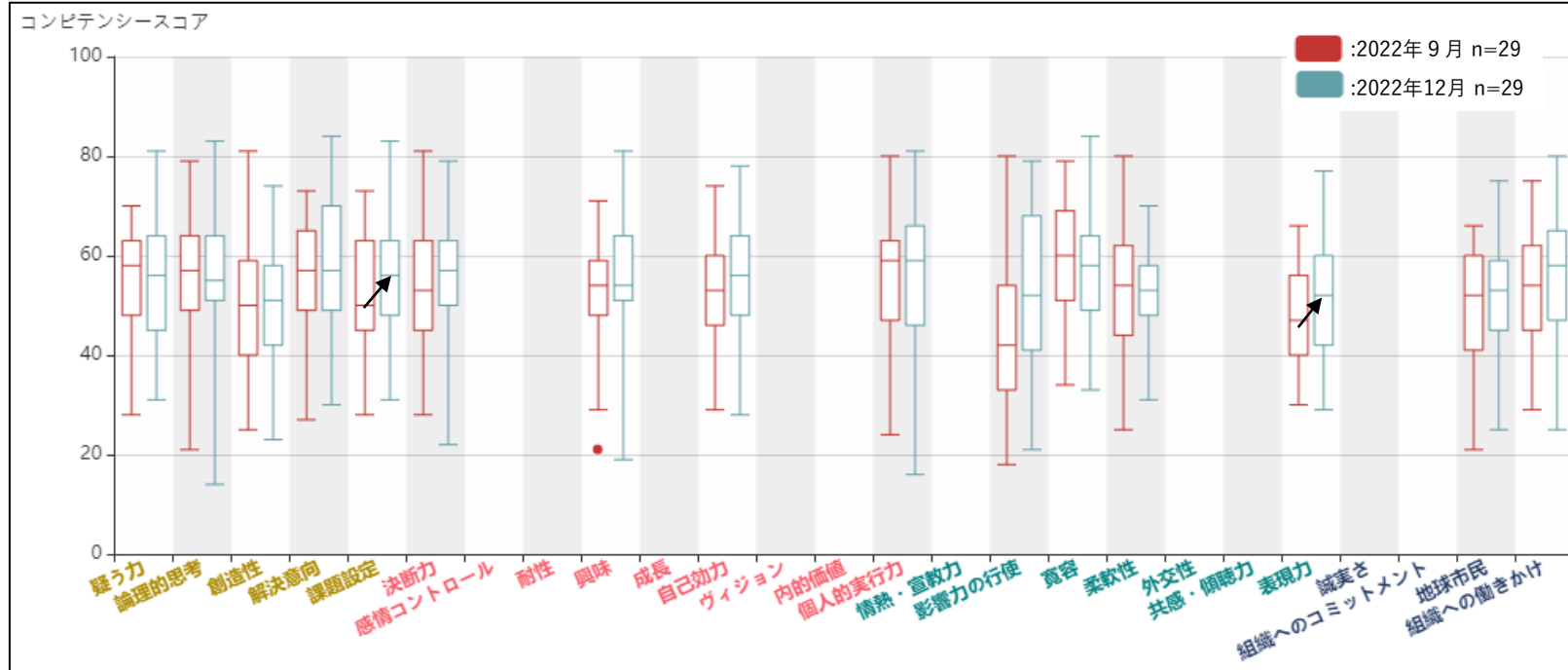
効果量	
0.01	非常に少ない
0.2	小
0.5	中
0.8	大
1.2	非常に大きい

分析方法：資質・能力を定量化する自社のアセスメント・ツール「Ai GROW」を使用。「GROW Academy」の活用前後で2度計測し、その間の生徒の資質・能力の変化を定量化した。

# EdTech導入補助金2022活用による成果の分析と考察

## 申請校C：高校3年生 (n=29)

特に育成したいと考えたコンピテンシー「課題設定」「表現力」で明らかなプラス成長が認められた。



### ■ 使用コンテンツ (動画)

育成目的	「GROW Academy」動画
表現力	五感表現 レトリック
論理的思考 (思考力)	抽象化・具体化

### ■ 今後使用したいコンテンツ (動画)

育成目的	「GROW Academy」動画
キャリア教育、自己分析・探究	ビジョン
論理的思考 (思考力)	ブルーオーシャン戦略
表現力	交渉力
決断力 (判断力)	ディシジョンツリー

	使用コンテンツに対応した育成コンピテンシー (○)																								
	そのうち、特に注目していたコンピテンシー (◎)																								
	○	○	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					
	疑う力	論理的思考	創造性	解決意向	課題設定	決断力	感情コントロール	耐性	興味	成長	自己効力	ビジョン	内的価値	個人的実行力	情熱・宣教性	影響力の行使	寛容	柔軟性	外交性	共感・傾聴力	表現力	誠実さ	組織へのコミット	地球市民	組織への働きかけ
最大値	81	83	74	84	83	79			81		78			81		79	84	70			77			75	80
中央値	56	55	51	57	56	57			54		56			59		52	58	53			52			53	58
最小値	31	14	23	30	31	22			19		28			16		21	33	31			29			25	25
平均	56	55	50	59	56	56			55		55			56		52	58	52			51			52	55
標準偏差	13	14	14	14	13	13			13		12			15		17	13	9			11			13	13
効果量	0.13	0.03	0.03	0.3	0.31	0.18			0.31		0.25			0.03		0.45	0.11	0.03			0.27			0.28	0.22

効果量	
0.01	非常に少ない
0.2	小
0.5	中
0.8	大
1.2	非常に大きい

分析方法：資質・能力を定量化する自社のアセスメント・ツール「Ai GROW」を使用。「GROW Academy」の活用前後で2度計測し、その間の生徒の資質・能力の変化を定量化した。

# ■ EdTechツールの導入・運用における課題とその改善策

## ■ 「GROW Academy」に対する要望3点

横浜市立南瀬谷中学校の回答

### 1. テーマ・課題のバリエーション増

- ・ 問い立てが難しいと感じる生徒も先生も多いので、課題設定力を高めるための動画がもっと増やしていただけるとうれしい。身近な不平や不満、違和感に大きなヒントが隠されていることが多いので、それらとからめて活用できるとなおよい（公立 高校）
- ・ 実社会の課題をテーマに掘り下げられるコンテンツがあるとうれしいです（公立 高校）
- ・ 各項目の学習内容が単発で終わらず、ふくらませていけるアイデアも提案していただけるとありがたい（公立 中学校）
- ・ 探究活動に必要な資質・能力は年々変化していくと感じる。基本・標準・応用というように、生徒の変容に合わせてコンテンツの負荷が変わると生徒の成長によりつながると感じる（公立 高校）

### 2. 難易度・レベルの調整

- ・ 内容や表現が小学生には少し難しいが小学生にも必要な内容だと思う。平易な表現のものがあればもっと活用したい（公立 小学校）
- ・ 生徒に授業のゴール（伸ばす能力）を明確に理解させるため、実施の前段階で用語の説明がもう少しあると良いと思った（公立 高校）
- ・ 10分程度で完結する指導案もあると朝のホームルームでも使いやすく、継続的にコンピテンシーへの意識付けができる（私立 高校）

### 3. 生徒の相談窓口の設置

- ・ 生徒自身が「GROW Academy」に対して直接アプローチし、自身の伸ばしたいコンピテンシーに対する心構えや相談などが気軽にできるスラックのようなスキームがあればうれしい（公立 高校）



これらの声を受け、令和5年度に向けてSTEAM探究プログラムを強化。  
その他の要望に関しては、優先順位を付けて対応検討を行う。



## ■ EdTechツールの導入・運用における課題とその改善策

### ■ 「EdTech導入補助金」事業、経済産業省や国の教育支援施策に対する要望

#### 1. 導入検討を後押し的一方、単年の試用期間では有効な検討に不足＜助走のための十分な期間の支援＞を希望する声が多い

- ・これからの社会で活躍する人材育成という観点で継続的に補助金を使用させてもらいたいです（公立 高校）
- ・単年度実施ではなかなか検証しづらいので、2年連続での助成か次年度に導入する際には、必要経費の一部でも補助いただけると導入しやすい（公立 高校）
- ・実際に使ってみないと学校に導入して良いものかどうかの判断ができないため、これからもこうした補助制度は維持してもらいたい（私立 高校）
- ・進路多様校では保護者の経済的な余力もあまりなく、ペアレントクラシーが強く表れている状況でもあるため、今後も経済的・人的支援があると助かる（公立 高校）

#### 2. 補助金制度とその内容の周知に関する事項

- ・経済産業省のみでなく文部科学省などの各省庁が協働し、それぞれの教育に対する政策を橋渡しするような支援があるとありがたいです（私立 高校）
- ・どんな教材や補助金の活用方法があるのかリスト化してもっと見やすくしてほしい（私立 高校）
- ・国や教育委員会にはこのような制度があることを学校側にもっと周知をしてほしい（公立 高校）



- ・補助金をいただいたおかげで充実した新たな学習を展開することができた。また、教育委員会からも視察に来ていただき、有用性を伝えることができた（公立 高校）
- ・補助金を活用させていただくことで、このような効果が期待できる事業を体験できたことは非常にありがたい。このような教育支援施策が広がり、選択肢が増えることを切望している（公立 高校）
- ・とても良い制度だと感じています。できるだけ今後も継続していただきたいと思っております（公立 高校）

本補助事業の予算化にご尽力くださった経済産業省の皆さま、事業期間中ご支援くださった事務局ご担当者の皆さまにこの場をお借りして御礼申し上げます。最後に、数多くあるEdTechツールの中から弊社の「GROW Academy」をお選びいただき、本補助事業にご協力くださった全申請校の先生方とその先にいらっしゃる児童・生徒の皆さまに改めて心から御礼申し上げます（IGS株式会社 教育事業部）

## ■ 会社概要

人を幸せにする評価と教育で、幸せを作る人、をつくる。



社名	Institution for a Global Society 株式会社	従業員数	48名 (2022年9月末日現在)
資本金	390百万円 (2022年9月末日現在)	売上高	720百万円
代表	福原正大 (代表取締役社長)	売上総利益	570百万円
オフィス	東京都渋谷区恵比寿南1-11-2 4階	経常利益	21百万円



代表取締役 福原 正大  
Masahiro FUKUHARA

### Services

**Ai GROW**  
探究力測定

**GROW Academy**  
グローアカデミー

**e-Spire**

**GROW360**

**Dx GROW**

慶應義塾大学卒業後、東京銀行（現：三菱UFJ銀行）に入行。フランスのビジネススクールINSEAD（欧州経営大学院）でMBA、グランゼコールHEC（パリ）で国際金融の修士号を最優秀賞で取得。筑波大学で博士号取得。2000年世界最大の資産運用会社パークレイズ・グローバル・インベスターズ入社。35歳にして最年少マネージングダイレクター、日本法人取締役に就任。2010年に、「人を幸せにする評価で、幸せをつくる人をつくる」ことをビジョンにIGSを設立。主な著書に『ハーバード、オックスフォード…世界のトップスクールが実践する考える力の磨き方』（大和書房）、『AI×ビッグデータが「人事」を変える』（朝日新聞出版社）、『日本企業のポテンシャルを解き放つ—DX×3P経営』（英治出版、2022年1月11日刊行）など著書多数。慶應義塾大学経済学部特任教授を兼任。米日財団 Scott M. Johnson Fellow。

お問い合わせ・資料請求、各EdTechサービスの詳細

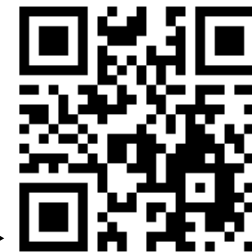
☎ 03-6447-7151 (平日 10:00~18:00)

✉ edtech@i-globalsociety.com

GROW Academy ▶



e-Spire ▶



Ai GROW ▶

